

## 綾プロ 事業説明会 開催

「生物多様性と綾プロの取り組みについて ～いのち豊かな綾の森～」

「生物多様性」の重要性を認識すると共に、いのち 豊かな綾の森を紹介します。

日時：2013年1月15日（火） 19：00～21：10

場所：綾町高年者研修センター

けました。事業に活かしていきたいと思っています。 ※お申し込み不要、スリッパをご持参ください



## 事務局だより

### ◆ てるはの森の会 関連行事

#### \*終了した行事\*

- 8月 7日(火) 第16回連携会議  
第5回連絡調整会議  
16、17日 M A B 関係者、綾町視察  
18日(土) エコパーク登録記念式典  
9月 1日(土) エコパーク登録記念式典  
2日(日) 文科省、綾町視察  
14日(金) 第6回連絡調整会議  
26日(金) 第7回連絡調整会議  
10月 16日(火) てるはの森の会 定例会  
11月 17、18日 九州環境ボランティア会議  
20日(火) てるはの森の会 定例会  
22日(木) 第8回連絡調整会議  
23日(金) 第11回照葉樹林復元ボランティア  
市民林床調査ボランティア  
30日(金) エコパーク専門委員会準備会  
12月 11日(火) てるはの森の会 定例会  
17日(月) 第9回連絡調整会議  
18、19日 赤谷アドバイザリーグループ関係者、綾町視察

#### \*今後の予定\*

- 1月 12日(土) 生物多様性市民講習会  
13日(日) 木育年間講座「本立てをつくろう」  
15日(火) 第10回連絡調整会議  
第17回連携会議  
綾プロ事業説明会  
24日(木) てるはの森の会 定例会  
28、29日 東道地区ふれあい調査  
2月 3日(日) 沼田賞授賞式  
15日(金) 第11回連絡調整会議  
16日(土) 第12回照葉樹林復元ボランティア  
3月 3日(日) 亀岡市生涯学習共生賞授賞式

### ◆ たくさんの募金にご協力を感謝します！

8月から11月の間、照葉大吊橋に設置した募金箱に、14,026円の募金をいただきました。  
綾の森づくりのために有効に活用させていただきます。

### ◆ 1月12日(土) 生物多様性市民講習会

「モグラが教える生物多様性  
～モグラ塚と土地利用の関係を探る」

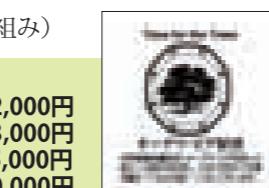
日時：2013年1月12日(土) 9:30～12:00 参加無料  
場所：綾町公民館 大会議室(フィールドワークあり)  
主催：綾生物多様性協議会  
(日本自然保護協会・綾町・てるはの森の会)  
※定員25名に達し次第、募集は閉めります。お申し込みは当会まで。  
モグラは日本の広い範囲に生息しているものの、人の影響によって生息地が狭まりつつあります。モグラの生態を学び、そこから生物多様性について考えるきっかけにしましょう！

### ◆ 「読者の窓」投稿をお待ちしています！

こんなおもしろいもの見つけたよ！等、何でも事務局まで読者の声を聞かせてください！

### ◆ 今年度はたくさんの表彰を受けました！

- 4月 ●自然環境功労者環境大臣表彰(てるはの森の会)  
(理由…自然とのふれあい及び普及啓発活動に尽力)  
7月 ●綾ユネスコ エコパーク登録  
10月 ●第48回宮崎日日新聞賞(綾町)  
(理由…綾プロと街づくり、エコパーク登録)  
●国際まちづくりコンクール(綾町)  
最高5つ星受賞と特別賞の同時受賞  
(理由…都市緑化や景観、森林保護、自治公民館制度etc)  
2月 ●第12回沼田賞(上野登代表)  
(理由…宮崎県、特に綾町での自然保護の取り組み)  
3月 ●京都府亀岡市 生涯学習共生賞(てるはの森の会)  
(理由…綾プロの先進的かつユニークな取り組み)



#### 会員募集中！

「てるはの森の会」では、綾の照葉樹林プロジェクトにご協力いただける会員を募集しています。会員になっていただくと、照葉樹林やプロジェクトに関する情報を掲載した「照葉樹林だより」を年4回お届けします。プロジェクトが実施するイベントや各種行事に参加できます。詳細は事務局までお気軽にお問合せください。

#### 年会費

個人会員	2,000円
家族会員	3,000円
団体会員	5,000円
法人会員	10,000円

# 照葉樹林だより

ISSN 1880-8794

てるはの森の会 会報第32号  
2012年12月20日



輝く清流 11月下旬、千尋の河原で綾南川の流れは晩秋の光をあびて、黄金色の波紋を輝かせていました。

(撮影 坂元守雄)

- 綾ユネスコ エコパークと  
綾の照葉樹林プロジェクトの連携 .....2p  
照葉樹林復元ボランティア  
木こり体験に参加して(綾中学生が初参加!) .....3p  
照葉樹林の潜在的分布域と保護の現状 .....4p

- 人と自然の「ふれあい調査」と上畠ツアー .....6p  
てるはの森の会での活動報告(宮崎大学3回生) .....7p  
事務局だより .....8p

発行：てるはの森の会(綾の照葉樹林プロジェクト事務局) 〒880-0014宮崎県宮崎市鶴島2-9-6 みやざきNPOハウス403号  
TEL 0985-35-7288 / FAX 0985-35-7289

E-mail: teruha@miyazaki-catv.ne.jp ホームページ: http://www.teruhanomori.com (フェイスブックも情報発信しています!)

# 綾ユネスコ エコパークと 綾の照葉樹林プロジェクトの連携

綾町照葉樹林文化推進専門監 河野耕三

## 運営体制を組織する

2012年8月7日に開催された綾の照葉樹林プロジェクト(以下綾プロ)第16回連携会議で、綾ユネスコエコパークの運営体制について、「綾プロ・地域連携協議会・町づくり協議会」の3本柱が互いに連携して行なうことが確認されました。(図参照)

綾町には、1966年から約半世紀かけて、森の伐採を止めながら町づくりを行ってきたという先行実績があります。それに対して、制度的に森を守るという実績は、2005年に協定を結んだ綾プロの誕生から始まります。森を伐らせないという表面的なストップ作用に加えて、地主である国が、伐らない、そして保護する、植林したところも復元するということを法的に担保する体制ができあがります。その結果、町づくりと森の保護・保全・利用の2つが合わさって、初めてユネスコエコパークに登録される条件が揃ったのです。

ユネスコエコパーク全域を包括し運営していくために、町づくりと森づくりの二つの運営システムが連携する地域連携協議会を設けました。町づくりと森づくりという車の両輪を連携させるために、非常に重要な機関であると言えます。綾プロ5者それぞれの代表と、町づくり協議会全体の代表が地域連携協議会に出席し、話し合いを進める案になっています。

## 綾ユネスコエコパーク運営の仕組み(案)



このような綾プロの体制が100年先まで続いて行くことが最大の課題です。さらに協定書に書かれている「地域貢献」の分野で、綾プロとしてユネスコエコパークにどう関わっていけばいいのか、つねに検討していくことが必要です。

(かわのこうぞう・宮崎市)

## 第11回 照葉樹林復元ボランティア 木こり体験に参加して

綾中学校教諭 丸山隆史

11月下旬の早朝、小雨が降る中でのスタート。私たち21名(生徒20名、職員1名)は綾町の照葉樹林の中で人工林を間伐する体験活動に参加しました。全員が初めての体験であり、生徒たちはこの日をとても楽しみにしていました。綾の照葉大吊橋を過ぎ、集合場所である川中自然公園に着くと、メディアの方々を含め、九州森林管理局、宮崎森林管理署、てるはの森の会等、30名近くの方々が参加しており、この森への関心の高さを感じることができました。

諸注意を聞き、森へ入る準備に入ります。ナタやノコギリを腰に装備し、ヘルメットを被ると生徒の顔が引き締まり、更にいきいきとしているのが分かりました。間伐作業の場所に移動し、宮崎森林管理署の方から説明を聞き、いよいよ実技へ。指導する方から「もっと腰を入れて」、「足を広げてごらん」、「もう少し斜めに」等のゲキが飛び、ついに1本のスギが地面に倒れました。「ドーン」という大きな音と共に、歓声と拍手が上がりました。生徒たちの慣れない手つきがだんだんと様になっていく姿を嬉しく思いました。そしてそれを見守る、指導する方々の顔が更に嬉しそうに見えました。やがて、緊張の中にも笑顔がこぼれ始め、約2時間の間に1人1本以上の間伐作業を体験することができました。危険な作業で緊張しましたが、指導する方々がとても楽しく、そして丁寧に教えてくださり、リラックスした雰囲気で間伐作業を終えることができました。

「間伐したこの木は、何年ぐらい経ったものですか?」私の質問に、答えてくれました。「30年です。」「30年!? そんなに?」この木を植えた方は今、どうしておられるのだろう。この仕事は世代を超えて受け継がれている仕事なのだと思います。そして、良い森とは必ず人の手が入っていることを教わりました。

午後からは綾ユネスコエコパーク認定の立役者である河野耕三先生とガイドボランティアの駒田勤さんのガイドのもと、照葉樹林を散策しました。バリ



熱心に話を聞き入る綾中学生。中央が丸山先生。

バリノキの由来、イチイガシやクスノキがなぜ大きくなるのか、サワガニの出産、クマタカの習性、イノシシの風呂場、山の役割等楽しい説明を聞きながら森の散策ができました。印象深かったのは、とても深いこの森の中で、かつて林業で生計を立てていた頃の家跡や製材所を見ることが出来たことです。その時の景色が、半世紀以上経った今でも、同じように見ることができます。河野先生の説明では「町の古老より80年前の様子がきける」と聞き、いつがぜひ聞いてみたいと思いました。

河野先生の最後の説明はサザンカの花でした。その花は、この季節でしか味わえない、柔らかな香りを放っていました。スギを含め、多くの木の香りには人をリラックスさせる成分が含まれているそうです。「この景色を100年先まで残したい。」そんな気持ちで山を下りました。生徒たちもきっと同じ気持ちに違いないでしょう。今回、貴重な体験をさせて頂き感謝の気持ちで一杯です。次回はもっと多くの生徒に呼び掛けてこの森のことを知りたいと思っています。これからも綾の森を守る活動に少しでも貢献できればと思っています。

(まるやまたかふみ・綾町)



木が地響きを立てて倒れた時、大きな歓声があがつた。みんな生き生きとしていた。

# 照葉樹林の潜在的分布域と保護の現状

日本自然保護協会 小此木宏明



日本自然保護協会にはSISPA(戦略的保全地域情報システム)というプロジェクトがあります。SISPAは以下の2つで成り立っています。

- ① さまざまな地理情報(この場所の環境はこうである、ここにはこんな生き物がいるといったインターネットの地図上に示せる位置の情報とその場所に関するデータの集合体)を主体にして、それ以外のデータも収集・管理し、関係者間でその情報を共有するためのデータベースシステム。
- ② 集まったデータをもとに、緊急に保護が必要な地域はどこか、どのような対策が必要かをGIS(地理情報システム)というソフトを用いて解析し、広く一般に伝え、具体的な保護の働きかけをする。

これまでに、「海岸植物群落調査から見た砂浜海岸の自然と保護上の課題」、「保護上重要な植物群落の分布と解析」などといった解析をしたり、綾に関係したところでは掃部岳や大森岳での日本自然保護協会の調査、気温の記録の結果の蓄積をしてきました。詳しくはホームページhttp://sispa.infoを見てください。今回は、照葉樹林が現在の日本でどれほど重要で、けれどもあまり保護されていないのか、ということをお話します。2011年に開催された国際照葉樹林サミットでポスター発表した内容です。

＊＊＊

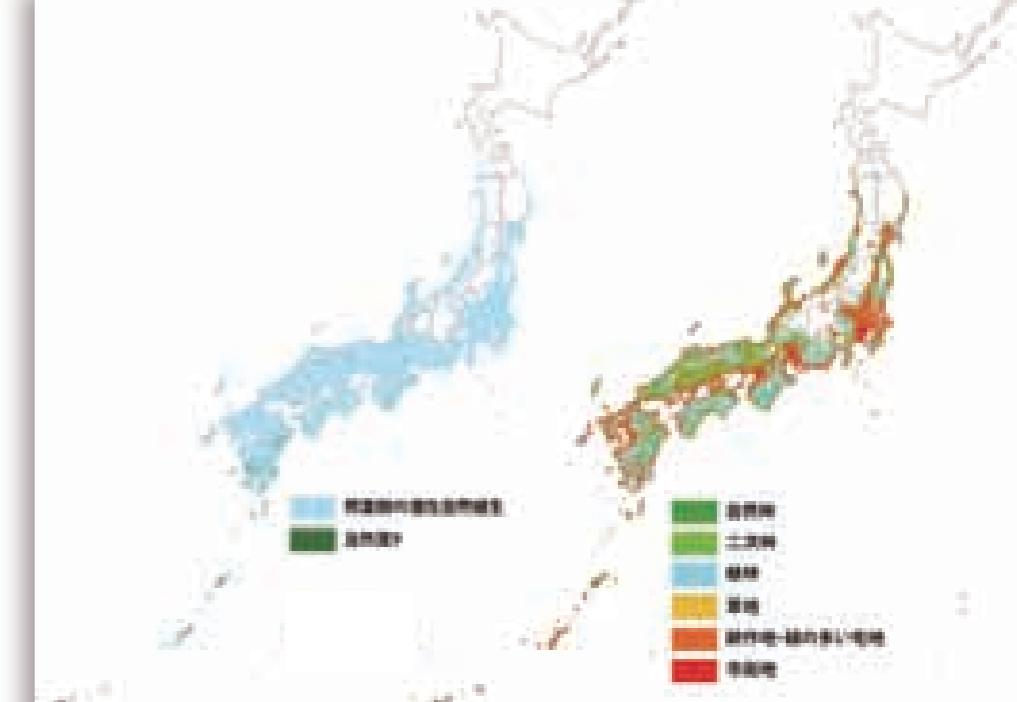
照葉樹林がどんなところかはすでにご存知かと思うので省略してしまいますが、現在、日本には照葉樹林はわずかな面積しか残されていません。

もともと、日本の国土のどれくらいの面積が照葉樹林だったか推定する方法があります。一年で最も寒い月の平均気温が-1°C以上になる地域に照葉樹が生育することから、気候値メッシュというデータを使用して当てはまる場所を全国のデータから算出しました。すると国土の53.7%が照葉樹の分布可能域であることがわかりました。

しかし一方で、現在も照葉樹の自然林である場所は、植物の分布を示した植生図を見るとわずか1.57%しかありませんでした。照葉樹林があったであろう場所が現在どのような状況にあるか、現在の植生図を見てみると、関東地方では市街地、耕作地、宅地に、中国地方では二次林に、紀伊半島や九州では植林地になっているようです。照葉樹林が分布するのは比較的温かいところのため、東日本では、低標高、海沿いの場所が多くなります。そういう場所は利用しやすいため、宅地や耕作地への改変が多かったと考えられます。(図参照)

では、日本の中でもわずか1.57%しかなくなってしまった照葉樹林は、はたしてどれほど保護されている

図 左:照葉樹の分布可能域(水色)、  
照葉樹の自然林があるとされている場所(緑色)  
右:照葉樹の分布可能域の現在の  
土地利用の状況



のか、自然保護法に基づいて指定されている国立公園・国定公園の地域・保護のランクの図と植生図を重ねて面積を計算しました。

すると、照葉樹の自然林を示す「ヤブツバキクラス域自然植生」のわずか18.85%しか保護地域になっていないことが明らかになりました。さらに国立公園、国定公園の中でも規制が厳重でしっかり保護される特別保護地区は3.16%にとどまります。一方で高山帯のお花畠などにも代表される高山帯自然植生は国土の0.3%と照葉樹林よりも少なく貴重ではあります。その82%が保護地域に、60.3%が特別保護地区に指定されています。またそれ以外でもコケモモトウヒクラス域自然植生の国土の4.2%に対する71.97%、ブナクラス域自然植生の11.26%に対する

17.09%に比べても保護されている面積は少なくなっています。

残り少ない照葉樹の自然林を守っていくためにも、自然公園のみではなく、さまざまな方法での保護地域の拡張は重要な課題ではないかと考えています。

＊＊＊

このような解析を進めるべく、データの蓄積などを進めていますが、SISPAの問題として、まだ、集めた情報の共有がなかなか進められていないことが挙げられます。ふれあい調査で地図にまとめきれなかった情報なども載せているので、近いうちに使い方講習会などが開催できれば良いのではないかと思っています。

(おこのぎひろあき・東京都)

表:保護地域におけるそれぞれの植生の割合

植生	植生面積(km <sup>2</sup> )	177,254km <sup>2</sup> のうち				合計	植生比率	国土比率	
		国土比率	特別保護地区	普通地域・保護地域	割合比率				
高山帯自然植生	1196.944763	0.30	685.543308	60.30	252.39036	22.19	937.88274	82.49	0.25
コケモモトウヒクラス域自然植生	15250.66698	4.02	1380.21908	9.05	5020.68761	32.92	6400.22126	41.97	1.69
コケモモトウヒクラス域代償植生	1240.723829	0.33	21.10824	1.70	342.14111	27.58	362.1896	29.19	0.10
ブナクラス域自然植生	42719.57625	11.26	701.56894	1.64	6625.21401	15.51	7300.04917	17.00	1.92
ブナクラス域代償植生	43301.73473	11.13	76.67557	0.18	3747.04569	6.88	3787.65187	8.98	1.00
<b>ヤブツバキクラス域自然植生</b>	<b>5963.708814</b>	<b>1.57</b>	<b>158.764</b>	<b>2.66</b>	<b>1000.81857</b>	<b>16.78</b>	<b>1124.34182</b>	<b>18.85</b>	<b>0.30</b>
ヤブツバキクラス域代償植生	58050.70209	15.31	57.81935	0.10	3540.87323	6.10	3386.88938	5.85	0.80
河川・崖面・塩原地・砂丘地	2188.741895	0.58	150.39772	6.87	305.81511	13.97	441.6733	20.17	0.12
植林地	93945.45578	24.77	19.20430	0.02	6167.67614	6.50	5611.57531	6.19	1.53
耕作地	79442.49132	20.95	4.89189	0.01	1465.98230	1.85	1309.48446	1.65	0.35
市街地など	26145.20935	6.89	1.35255	0.01	424.41002	1.62	360.59077	1.38	0.10
自然林地	1320.056912	0.35	120.21343	9.11	281.09562	21.34	385.37902	29.21	0.10
開拓木地	9617.972184	2.54	51.97658		18061.45389		14603.85531		
森林地	37934.0589		3429.53113				46311.38861		

## 人と自然の「ふれあい調査」と上畠ツアー

会員 木佐貫ひとみ

今年は綾の照葉樹林に関わる皆さんにとって忘れない年となりましたね。綾ユネスコエコパーク登録!生態系を保全しながら人と自然の共生を目指すこの取り組み。上野代表は登録にあたってのコメントの中で、「保全のためには地域の豊かさが基礎である。地域の住民の豊かさを高めるその力で、中核的な豊かな生態系を保全していくのである。」と述べられました。

思うに、この「豊かさ」とは単に経済的な意味だけではないでしょう。そこにある人材や人と人の結びつき、自然風景、暮らしの中で受け継がれている文化や歴史が地域の豊かさとなる。そのことを私はこの9月に参加した上畠ふれあいツアーで実感しました。

このツアーは、上畠にはどんな自然や歴史があるのか、人と自然のふれあい調査をもとに作られた地図を手に地域を歩くものです。公民館長小西俊一さん、副館長三輪喜久夫さんのご案内で、東京や大阪などから参加した学生たちと一緒に、田んぼや畑、湧水、川、神社などを巡ってきました。



オガタマノキの下の湧水で水を汲む



上畠地区にある軍護(いくさご)神社。  
この日は、東京大学などから学生さんが上畠ツアーに参加した。



宮崎大学 教育文化学部3回生  
竹井大記  
中馬聰杜  
牧恵瑠奈  
萬福はるか  
宮崎茉穂



### 8月17日「MAB関係者に綾町を紹介」

綾町の綾川荘にて、国内外のMAB関係者との食事会を兼ねて、綾町の紹介をしました。特産品や、WG委員の町内のお気に入りの場所を紹介しました。また、発表の後は綾川荘の食事をいただきながら交流を深めました。綾町にとても関心を持ってくださいましたようでした。

### 9月30日「壱道地区の3世代交流

#### ～ふれあい調査アンケート結果発表～

会場の壱道地区公民館に集まり、大人は中秋の名月を楽しみつつ、料理を味わいました。子どもたちが地区の家々を回りお菓子を貰った後は、世代対抗の綱引きが行われ、子どもたちの楽しそうな声が響いていました。地区全体で子どもたちを見守っていました。

### 10月31日「第8回地域づくりWG

#### ～熊本県美里町でフットパス体験～

フットパスとは、観光客が町の風景や名所を盛り込んだコースを、地図を元に散策するものです。現在地域づくりWGで進めているマップ作りの参考にするため美里町へ行きました。地図を作成した美里フットパスの濱田孝正さんのお話では、人が集まることで地域の住民も元気になるということで、地域には可能性があることが分かりました。

(たけいひろき ちゅうまあきと まきえるな  
まんぶくはるか みやざきまほ・宮崎市)



美里フットパス体験で、  
熊延(ゆうえん)鉄道跡を歩く。  
「岩つっぱり」と言い、八角形  
をしたトンネル風の遺構。

明見神社のイチイガシ